

くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2016を開催しました

10月29日及び、30日にくらしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会(実行委員長:岡村敏之 東洋大学教授)との共催で、東洋大学白山キャンパスにて開催しました。

「元気な「くらしの足」をつくりだす」というテーマで、山田和昭 若桜鉄道代表取締役社長、野村文吾 十勝バス代表取締役社長、

貞包健一 三ヶ森タクシー代表取締役、加藤博和 名古屋大学大学院准教授の4名による討論会などを行いました。

また、全国が取組が62編、ポスター形式で発表され、参加者との意見交換なども行われました。300名近い参加者があり、どの企画においても時間が足りないほど白熱した議論が行われました。



討論会



取組紹介

第13回 エコプロダクツ大賞 国土交通大臣賞の表彰を行いました

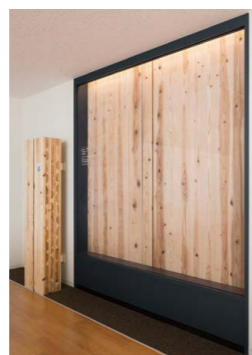
「エコプロダクツ大賞」は、エコプロダクツ大賞推進協議会(一般財団法人地球・人間環境フォーラム、一般社団法人産業環境管理協会、当財団、一般社団法人日本有機資源協会)が主催し、環境負荷の低減に配慮したすぐれた製品・サービスを表彰することで、

エコプロダクツの更なる普及を図るものです。

平成28年度の国土交通大臣賞として、株式会社竹中工務店の「木を使った短工期・省CO₂耐震補強技術」が選ばれ、12月に開催された「エコプロ2016」の会場で表彰されました。



集材材を用いた「耐震ブレース」



木質パネルを用いた「耐震壁」

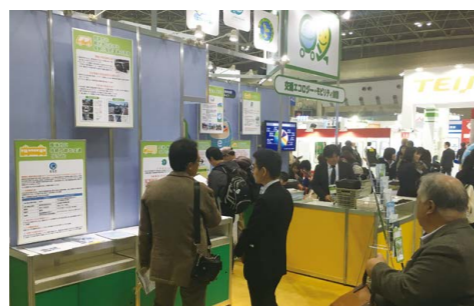
第13回国土交通大臣賞
株式会社竹中工務店
「木を使った短工期・省CO₂耐震補強技術」

エコプロ2016へ出展しました

エコプロ展は、環境配慮型製品・サービスの普及を目的に、平成11年から毎年、東京ビッグサイトで開催されている環境総合展示会であり、ビジネスマンや行政担当者、一般消費者が来場する国内最大の環境イベントです。

今年度も引き続き出展し、運輸部門における地球温暖化問題の現状やその対策、財団活動の紹介をビデオ放映とパネル展示により行いました。

(エコプロ2016の実績……出展:705社・団体、来場者数:約170,000名、当財団ブースへの来訪者数実績……4,500名)



当財団の出展風景

特集徒然

『COP22開催』の地、モロッコのバリアフリー事情

今号の特集にあるモロッコは、北アフリカ西部のマグリブに位置する国家でサハラ砂漠を有することから暑い国の印象がありますが、西は大西洋、北は地中海に面して、標高が3,000mを超え雪が降るアトラス山脈なども有する国です。首都はラバトですが、カサブランカが映画で描かれただけに有名な都市のひとつです。特集のCOPの舞台となったマラケシュ、迷宮のような旧市街が有名なフェス、ジブラルタル海峡に面した国際都市であるタンジェなど有名な都市です。



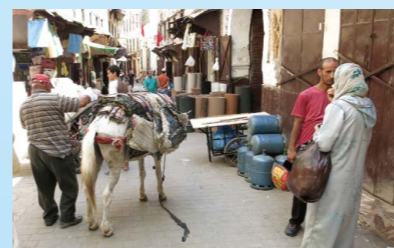
カサブランカのLRT(完全バリアフリー)



バスはまだまだ2ステップ車が幅を効かせています。



砂漠地帯以外の全土を縦断する鉄道は長距離バスと並んで庶民の足です。



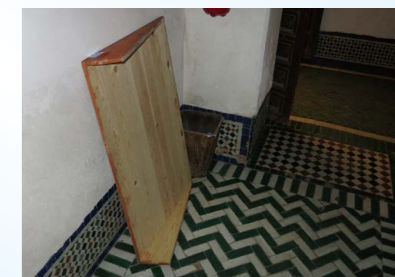
最古の都市として約1000年の歴史を残す旧市街(メディナ)は世界一複雑な迷路と言われている。メディナ内は段差、急勾配、狭い路地があり人間以外ではロバが唯一の足です。



マラケシュの旧市街にあるジャマ・エル・フナ広場の文化的空間が国際的に評価されて無形文化遺産にも登録されています。11世紀後半には街の中心となっていて公開処刑も行われていたそうです。毎晩お祭りのような賑わいです。



マラケシュのアグノウ門 城壁に囲まれた旧市街地への入り口に12世紀に造られた門です。



建物内部には段差が多くありますが、木製の可搬式スロープを準備している施設が多くあります。



道路は整備されているにもかかわらず、連続性、維持管理が不十分な状態です。

主に海岸沿いと内陸部を縦断するタンジェ=フェス=ラバト=カサブランカ=マラケシュを結ぶ鉄道もあり、長距離列車、夜行列車、2階建て電車などが走っていますが、2階建て電車以外はステップがあります。バスはノンステップバスが走っているものの、ほとんどが2ステップです。ラバトとカサブランカには日本にもまだない最新式の全低床式LRTが整備されています。

道路はまだまだ歩道が十分に整備されているわけでもなく、整備されていても途中で段差があったり、舗装面が平らでなく凹凸があったりして平らでない状態です。ただし、必ずまわりの人が手伝ってくれるなど日本は見習わなくてはいけないところもあります。遅れている、進んでいるというものではない、情熱だけではなく温かい心が感じられるところです。